



県内移住就農

新規参入

研修制度

しらいし しんや  
白石 慎也さん（高梁市備中町）

**就農**：2018年（就農当時38歳）

**新規就農研修**：2017年4月～2018年3月

**就農パターン**：県内移住就農（倉敷市出身）

**耕地面積**：37a（うち借地 37a）

**経営面積**：トマト26a（その他自家野菜等）

**経営参画者**：本人、妻

**農業は個人事業主であるものの個人でやっている感はない。ものすごく多くの方に支えてもらっている。新規就農のキーワードは、『人』だ。**

#### ——就農のきっかけは？

前職のサラリーマン時代はやりがいがあり、不満もなかったものの、次第に『自分で作ったものを売りたい』と考えるようになった。前職の豊業界ではイグサ農家と接する機会が多く、自分のイグサで織りあがった畳表を自分の顔として販売しているのを羨ましく思ったことが大きいと思う。熊本県の八代で営業している時、トマト農家の話を聞いたこともきっかけとなった。

#### ——岡山（高梁市）を選んだ理由は？

長年住み慣れた岡山県に素晴らしいトマトの産地があったことが一番。移住前の現地訪問が容易だったのも大きい。妻が高梁市成羽町出身で、移住先の備中町と近かったことも理由の一つで、何かあったときには助けてもらえる。本地域は中山間地域で人口減少と高齢化に悩まされているが、その分、新規就農者の受入に力を入れており、地元農家をはじめ、行政やJAからの丁寧なサポートがあり、先輩の移住就農者が多く、体験談を聞くこともできた。歴史あるトマト産地なので技術伝承や生産物の市場評価

など様々な強みがあることもメリットだと感じ、この地域のトマト経営は安定している印象を受けた。

#### ——「トマト」を選んだ理由は？

もともとトマトが大好きだったことが一番の理由。そして他作物に比べて収益性が高く、収量、価格が安定していること、地元出身者のみならず市外や県外から移住してきた就農者たちが産地を支えていることが魅力だった。また、先輩農家が経営について具体的に教えてくれたので、トマトを選択する不安が大きく解消された。加えて、桃やぶどうと異なり1年目から収入があることも魅力的だった。

#### ——就農で苦労した点と解決方法は？

##### 【農地】

空地が多いのですぐに借りられると考えていたが、そうはいかなかった。受入農家や地域農家に助けられ、何とか経営に必要な面積分の農地を確保できた。効率的に栽培するために、借りた4枚の田んぼを土木工事で区画整理して1枚にま

とめ、そこにハウスを建てて栽培している。借りた農地の隣に地主さんの家があるので、貸してよかったと思ってもらえるように頑張っている。

### 【資金（経営・生活）】

ハウスなどの設備投資にかなりお金がかかるため、自己資金が不足する場合は借入する必要がある。

### 【栽培技術】

受入農家での研修に加え、市のトマトスクールなどで知識や栽培技術を習得した。自分のような農業未経験者でも研修で栽培技術を習得することができた。就農前、自分でうまく栽培できるか不安だったが、普及指導員の巡回指導、部会の栽培講習会、先輩農家への質問、研修の復習など、まわりに質問や確認することで乗り越えた。また、部会内の情報交換を通じて、就農後も栽培ノウハウを共有している。

### 【住宅】

地元農家が情報を探ってくれたが、なかなか見つからず、なんとか借りられた借家も最低限の修理が必要な物件だった。就農資金を残すため、補修は必要最低限を自分でするにとどめたものの、先般、二人目の子供が生まれた時に、柱が傾いていたりする今の家で育てることに不安を持つようになった。今では愛着ある我が家だが、最初に選ぶとき、もう少しこだわってもよかったかもしれない。

### 【機械・施設の準備】

産地の仲介で中古ハウスを確保するなど、初期投資の低減を図った。その後、補助事業や無利子の融資を活用しながら設備投資を行ったが、それでも機械の設備投資等多くの借金が残っている。補助金の活用を考えた場合、新設して補助金を使うのか、補助金が使えないけれど中

古で揃えるのか、比較・検討した方がよい。

### 【認識のギャップ】

農業には答えが複数存在する。「これはどうするのか？」と聞いても、「私ならこうする」「人によって異なるので答えられない」など、答えが一つではなかった。「農業は100人いれば100通りのやり方がある」と気づくまで悩んだ。

### ——経営目標は？

まだ経営的に余裕はなく、ハウスや機械の設備投資で借金もある。今は、早くしっかりと儲けられる農家になることが目標。

### ——農業のやりがいは？

成功しても失敗しても自分に結果が返る。時間の使い方を自分で決められるので気持ちに余裕ができ、自分や家族の時間を大切にできる。田舎暮らしでの少々の不便は家庭の幸せで感じなくなる。そして、自分がつくった美味しいトマトが消費者の皆さんの毎日の食卓に並ぶのは、大きな喜びです。

### ——地域への適応、順応に苦労した点、気を付けた点は？

地域活動に積極的に関わっている。

### ——産地に入るメリットは？

J Aの部会に加入し、高性能な選果場を備えたJ Aへ出荷している。出荷はコンテナ収穫して保冷库に持っていきだけで（個人で出荷すると大変な手間がかかる）、その分時間と労力を栽培に回せる。また、傷トマトも規格外品として出荷可能で、生産物のロスが少なくなる。販売方法、パッケージ、品種は統一されるもののデメリットは感じない。

### ——今の産地の魅力は？

高い技術力に基づく生産力と、高性能な選果場による生産物の口スの少なさが特徴で、高単価と高単収（面積当たりの収穫量）が期待できること。また、新規就農者の受入実績も豊富なので、多くの先輩就農者に相談でき、行政機関やJAからも様々なサポートが受けられるなど、技術面からのバックアップ体制も整っている。

### ——地域との関わりは？

農業後継者クラブの他、消防団、猟友会など地域の問題解決のために活動する部署に積極的に関わっている。地域貢献のためというより、むしろ自分自身に充実感があるからやっている。地域の方に「白石君は楽しそうに頑張っているな」と思ってもらえたら、うれしい。

農業は個人事業主であるものの個人でやっている感はない。先輩農家、地域の方、普及センター、JA、新規就農仲間など、ものすごく多くの「人」に支えてもらっている。2019年の台風襲来時、風で壊れたハウスを目にし、思わずハウスに近づいたら近所の先輩農家があわてて飛んできて、「2度とトマトがつかれん体になるぞ」と止めてくれた。「命あっての物種」とそのシーズンの作をあきらめかけていたところ、翌日には後継者クラブのメンバーが集まってきて、1週間たらずで修復した。農業者のつながりのありがたさに涙した。

### ——今後やりたいことは？

後継者クラブ活動の一環で「YouTube」や「Instagram」、「Twitter」を利用した情報発信をしていきたい。

また、後継者クラブ等のグループで6次化商品の商品化やインターネット販売、ふるさと納税の対象商品化を図りたい。

### ——後進へのアドバイスは？

- ①就農のキーワードは『人』。地域の一員として人とのつながりを大切にし、お互いに助け合ってこそ、生活が成り立つ。
- ②『自分と違う考えがあることを受け止める』こと。自分も当初、仕事や住む場所、立場が違うだけでこんなにも考え方が違うのか、「変な人だな」「仲良くなれない」と感じ、自分と異なる考えに腹が立つこともあった。しかし、よく考えると、それは自分では思いつかない考えで、今ではむしろ、新しい考えに遭遇するとチャンスだと思うようになった。
- ③大ベテランの先輩農業者が「白石が面白いことをしているから」と見に来る。技術も経験もある農業者なのにもものすごく貪欲。『農業に貪欲であれ』

### ——就農前の自分へのアドバイスは？

就農地域を決めるまでに、いろいろな産地を見学して、就農計画を検討する時間をしっかりつくった方がスムーズに就農できるよ。

また、研修中は補助金以外に収入がなく、就農のための資金が減少していくのが怖かった。夫婦で就農を目指すのならばどちらか就農直前まで仕事を続けた方がよい。

そして、恩義を忘れぬよう、でも熟考して、自分に正直に、思いは主張してね。

### ——私の一文字

「楽」。苦労もあるけれど、楽しい。



就農相談にも対応